

*…減築

「減築リフォーム」という言葉をご存じだろうか？ 建物の床面積や部屋数を減らすことだ。家族構成は、子供の誕生、親との同居、子供の独立、親との別居、夫婦2人などと変わる。その変化した「暮らし」に合わせて、住まいもコンパクトにするのだ。増やすことはあっても、減らすなんて発想は今までなかった人が多いはず。パソコンで「げんちく」と打っても「減築」とは交換されないことからしても、一般的な概念とは言い難い。ところが「ぞうちく」は即座に「増築」と交換される。そんなに増やしたいの

Let's リフォーム 西田恭子

だろうか？ 少子高齢化で、日本の世帯の半分近くはもはや1人か2人暮らしだ。2世帯住宅の機運もいまひとつ盛り上がりがないなか、2人暮らしで迎える「終の住処」は、コンパクトであればあるほど住みやすいのではないかと？

そう問いかけると、減築なんかに関係がなかった人でも、「そうね。小さくするとお掃除が楽になるかしら」と興味を示す。「物の整理ができるわね」という人もいる。世代が変わるタイミングでリフォームをする人も多いが、故人の物を整理しながら、「私はこん



風致地区にふさわしい落ち着いた雰囲気のある平屋の住まい④は、築44年で増築した総2階建て⑤の上半分を取り払ってできた



であれば、車庫を大型車用にしたいからとか、1階に中庭を作るためなど、いろいろな事例を扱ってきた。

減築をした人たちが口ぐちにもらす感想は、「目の届く、手の届く範囲の暮らしが、こんなに快適だとは思わなかった」ということだ。家事の効率な

なため込まないで、きれいに死なない」とつぶやいたりしている。物は、「いま必要なもの」、「今後、必要になるもの」、そして「後世に残したいもの」とに分けられ

る。また、それ以外は不要だといえる。そうしたことは重々わかっている、置く場所があれば詰め込んでしまうのだ。減築では、写真のような2階をスパッと取ってしまった潔いものも

ど、動線計画から考えられることの多い減築リフォームだが、生き方を考える生活を見直し、自分が家の隅々まで把握できることで、これからの生活基盤がしっかりしたという安心感が加わっているのかもしれない。

生き方を考えるきっかけにも

(三井のリフォーム 住生活研究所所長、1級建築士)